



わかば新聞

2023年
9月号
NO.98



学びの

秋

です

生活相談員兼務介護職員として勤務しています中村です。

今年の7月より、和歌山県、社会福祉法人和歌山県社会福祉協議会等の主催による「令和5年度地域生活課題の解決に向けたソーシャルワーク研修会」に参加し学びさせていただきました。全4回の研修（7月～翌年1月まで、3本の講義と演習編、実習編と、フォローアップ編の全4回）で、現在まで2回の研修を終えています。非常に難しい内容で久しぶりに頭を悩ませています。ソーシャルワークとは、簡潔に言えば「人を社会で手助けすること」です。例えば「足腰が弱って不安です。助けて」の声に「でしたら、介護保険の申請が必要です。運動できるデイサービスがありますよ」と提案できる、などがあります。今回の研修では宿題も多く出されました。地域の問題解決に向けた研修ということで、特養の職員である私には少し離れた課題では、とっていました。

しかし、社会福祉法人には、地域の福祉推進の中核としての役割があり、様々な困りごとを「他人事」ではなく、「我が事」として地域・福祉関係者が取り組んでいけるよう働きかけることが求められています。

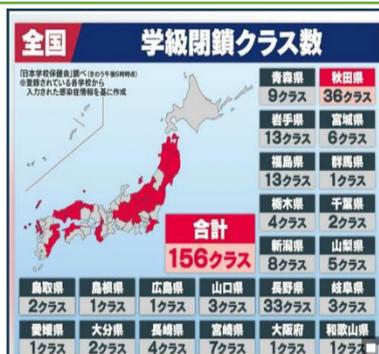
わかばも来年は開設10周年を迎えます。地域の方々に助けられて開設し、現在に至っていますが今後より一層地域の方々と「地域の中でなにができるか?」「何をしなければならぬか」と考え行動に移していかなければと考えています。
(中村広美)



おしらせ 特養わかばが

福祉避難所になりました

社会福祉法人わかやま虹の会は、本年6月、和歌山市との間で「災害時における福祉避難所としての施設利用に関する協定書」を締結しました。※福祉避難所は、災害時に特別の配慮・介護を必要とする方を、和歌山市の要請により受入れます。



まだまだ油断できない新型コロナウイルス感染症

～医務室より 山本眞智子～

厚生労働省によりますと、8月27日までの1週間に全国でおよそ5,000の医療機関から報告された新型コロナの患者数は前の週から7,036人増えて9万3,792人となりました。夏休みも終わり新学期がはじまりましたが、学級閉鎖が相次ぐ県もあるようです。東京ではバスの運転手の中で感染が広がり、なんとバスの運休が決まったとのこと。

これまで主流を占めていたオミクロン株XBB1が変異株EG5に置き換わってきています。専門家は「重症化の傾向は、いまのところないが、これまでの免疫をすり抜けるため感染力が強い」と語っています。また、私たちが今できることとして、これまで通り重症化リスクのある人を守っていく ②介護施設や病院での感染予防対策はしっかりやりクラスターを避けるべき ③リスク高い人に会うときはきちんとマスクを着用したり手洗いを行う」としています。わかばでの面会時、病院付き添い時にも、感染予防対策や人数制限をお願いします。

特別養護老人ホーム

〒640-8390 和歌山市有本140

TEL (073) 475-0015 FAX (073) 475-0016

HPアドレス <http://www.nijiwakaba.com/> ※「にじわかば」で検索

わかば